

青梅市文化財ニュース

第 2 9 4 号

平成 2 4 年 4 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

4 月になり、今年も市内の各小学校に新しいピカピカの 1 年生が入学してきました。今年の市内の 1 年生の総数は 1,064 名（4 月 1 日現在で確定数ではない）だそうで、一昔前と比べるとずいぶん少なくなったなあという感じがしますが、青梅の将来を担う子供達です。これから大きく成長していったほしいものです。

さて、これから各地区の学校について、この紙面をお借りして市民の皆様にご紹介していこうと思います。自分の母校がどのような歴史をたどって今に至っているのか、概説的なものになるかとは思いますが、頭の片隅にでもとどめておいていただけたらと思います。

青梅市立第一小学校

皆さんも御存知のことかと思いますが、青梅市は昭和 26 年青梅町と調布村・霞村の 1 町 2 村が合併して誕生しました。その中心はやはり青梅町で、もともと青梅町にあった学校がこの時に青梅市立第一小学校となりました。この学校の歴史を遡ってみますと明治時代初めまで遡ることができます。

慶応 4 年 10 月、徳川幕府第 15 代将軍徳川慶喜は大政を奉還し「明治」という時代になりました。明治になったとはいえ薩長の新政府が完全に日本全国を掌握するまでに 1 年以上の時を要して、その後に新政府は近代国家としての改革をものすごい勢いで進めていきました。それまで決まりの無かった師弟の教育についても、明治 4 年 7 月に文部省を設置し、明治 5 年 8 月に太政官布告という形で「…一般の人民村に不学の戸無く、家に不学の人無からしめん事を期す、…」という有名な「学制」を發布し、各村々に学校を設立するよう布達を出しました。

青梅村では、「学制」發布前の明治 4 年 8 月に「郷学校創立規則建言」という形で、この時の支配者である韮山県江川太郎左衛門知県事の役宅に提出されました。この建言書は青梅村第 30 番屋敷守谷七郎左衛門貸家住居：本田養民・同所貸地住居横川文一郎・第 75 番屋敷小林予助の 3 名の連名で出されました。この後廃藩置県で青梅村が神奈川県に編入される等監督庁の移動や制度上の変更で時間はかかりましたが、明治 6 年 5 月 5 日に青梅本町 152 番地守谷七郎左衛門所有家屋を仮校舎として「青梅学舎」が開校しました。開校はしたといっても現代のようにしっかりとした制度が出来上がっているわけではなく、各村が学校のすべてを賄うわけですので、いろいろと大変なことが多かったのではないのでしょうか。

次に日向和田村を見てみますと、「青梅学舎」が開校された翌月の明治 6 年 6 月 18 日に「陽よう嶺学舎」が岩村正盛氏によって開校されました。この岩村正盛氏は、和田乃神社

の仮神宮で平田門人でもあり、「協心神習舎」（現青梅二小）の枝校として自宅を開放されていた関係で、ここに改めて日向和田村 205 番地に「陽嶺学舎」が開校しました。この「陽嶺学舎」ですが、教鞭をとっていた岩村正盛先生が西多摩郡役所の書記に就任された関係で明白院に移ったり、指導者が代わったりした関係か明治 10 年 6 月に「青梅学舎」に合併されました。青梅学舎に合併はされましたが、しばらくの間低学年児童の通学の便を考えて明白院を分校として使用していました。その後明治 32 年 4 月（明治 22 年町村制が施行され青梅村は日向和田村・西分村・勝沼村を合併して青梅町となる）日向和田 299 番地に「青梅学校日向和田分教場」が新築されました。日向和田村に創立された「陽嶺学舎」はこのような歴史をたどりしました。

西の日向和田村に対して、東側では西分村の宗徳寺を教場として、「温知学舎」が明治 5 年に勝沼村の齋藤眞指・医師の三枝松次郎・小島半平、西分村の浜中良亮・山崎喜右衛門等の努力と国学者井上頼圀氏の指導によって開校されました。「青梅学舎」や「温知学舎」よりどうして設立が早いのか？思うに、「青梅学舎」より先に開校した長淵村の「協心神習舎」で教鞭をとっていたのが勝沼神社の宮司齋藤眞指で、校長が国学者の井上頼圀という関係だったので、本校より設立が早かったのではないかと推察されます。いずれにしろ、開校にあたっての最高の功労者は西分村名主を弱冠 16 歳で継いだ、浜中良亮の力によるところが大きかったのではないかと思います。この浜中良亮ですが、明治 7 年第 13 大区 2 等学務取締りを任ぜられ、次いで同 8 年には 1 等学務取締りとなり、地方教育への功績は誠に大であったということです。

こうしてみると青梅一小的基は「青梅学舎」と「陽嶺学舎」と「温知学舎」の 3 校であるということがわかります。この中心は何と言っても「青梅学舎」ですが、始まりは守谷七郎左衛門の持屋を改造したものでしたので、生徒数の増加に伴ってすぐに手狭になりました。本校者の新築が急務の事態になりました。学校世話役を中心に住民から寄付を募り協力を仰いで、当時としては珍しい洋館二階建て、ガラス窓の付いたペンキ塗りのバルコニーのある校舎を総工費 544 円 73 銭をかけて梅岩寺の境内に完成させたのでした。

その後、前述の明治 10 年日向和田村の「陽嶺学舎」と西分村の「温知学舎」を排して「青梅学舎」へ統合しました。そして、名前も「青梅学校」として新たに発足し、校舎も新築となった洋館校舎の隣に増築して現在の第一小学校の基となったのでした。

その後小学校令を始め何回かの制度の改変等があり高等科が設立され、名実ともに青梅を代表する学校になっていったのでした。

これまでの卒業生は 12,320 名を数え、現竹内青梅市長を始め多くの卒業生の方々が各界で活躍されています。現在青梅一小では、427 名の児童が勉学に励み、市内で唯一校庭の芝生化を行っている学校です。これからの新緑の季節には、校庭の芝生の緑が美しく、校舎を引き立てているのではないのでしょうか。

（文責 神森 正）

参考文献 「青梅学校 創立 100 年史」、「神習のあゆみ」